

公益財団法人岩手県文化振興事業団第52回理事会議事録

- 1 開催日時 令和2年7月15日(水) 午後1時30分～
- 2 開催場所 岩手県立博物館 会議室
- 3 出席者 理事総数 9名  
出席理事 8名  
理事長 高橋 嘉行 理事 齋藤 哲子  
理事 柴田 和子 理事 熊谷 常正  
理事 山崎 隆 理事 菅原 伸夫  
理事 佐々木 一成 理事 高橋 廣至  
  
監事総数 2名  
出席監事 2名  
監事 佐々木 恵太 監事 田村 均次
- 4 議長 理事長 高橋 嘉行
- 5 決議事項  
議案第1号 業務執行理事の選定について  
議案第2号 令和2年度事業計画の変更について
- 6 報告事項  
報告事項1 職務執行状況の報告について  
報告事項2 令和2年度県出資等法人運営評価シートについて  
報告事項3 働き方改革関連法に基づく有期雇用職員の勤務条件、給与等の取扱い(素案)について
- 7 議事の経過の要領及びその結果  
定刻、総務部総務課長が開会を宣し、本理事会は定款第35条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げ、理事長が議長席に着き、次の議事に入った。

[決議事項]

(1) 議案第1号 業務執行理事の選定について

議長は議案第1号を上程し、総務部総務課長より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

(2) 議案第2号 令和2年度事業計画の変更について

議長は議案第2号を上程し、県民会館ホール課長兼事業課長、埋蔵文化財センター総務課長、博物館副館長及び美術館副館長より別紙議案書に基づき説明がなされ、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

[報告事項]

(1) 報告事項1 職務執行状況の報告について

別紙資料に基づき、理事長並びに業務執行理事4名より報告があり、全員これを了承した。

(2) 報告事項2 令和2年度県出資等法人運営評価シートについて

別紙資料に基づき、総務部総務課長より報告があり、全員これを了承した。

(3) 報告事項3 働き方改革関連法に基づく有期雇用職員の勤務条件、給与等の取扱い(素案)について

別紙資料に基づき、総務部総務課長より報告があり、全員これを了承した。

《質問・意見等》

**【理事】**

県民会館の事業計画では、全国高等学校総合文化祭(高文祭)参加校のテレビ収録を行うとのことだが、どのような内容か。

**【県民会館ホール課長兼事業課長】**

県民会館の新規事業として、新型コロナウイルス感染症の影響でコンクールできなかった高文祭の参加校のために、マスコミ(テレビ各社)と組んで、練習や舞台発表を取材・収録して映像に残す企画を立ち上げ、県と協議しているところである。

**【理事長】**

3密を避けるため鑑賞人数が抑制されている。例えば合唱や演劇などについて、保護者や同級生等も広く鑑賞できるようにしたいと考え、地方創生交付金の活用を含め県と協議しているところである。

**【理事】**

岩手芸術祭や芸術体験イベントは、オンラインによる映像配信などを取り入れて予定通り実施する。体験イベントは、県民会館から外に出て開催することも検討している。

**【理事】**

県民会館の運営は、指定管理事業と収益事業とで運営しているが、新型コロナウイルス感染症による収益事業の減収は、令和3年度以降も続く見通しか。

**【県民会館長】**

県民会館の指定管理期間は、平成30年度から令和4年度までであり、新型コロナウイルス感染症による減収がどうなるのか見通しは立たない状況である。利用料金収入が運営費全体の3分の1を占めているため、県に状況を説明し減収分の手当てをお願いしているところである。

**【理事】**

美術館の入館者数をみると、美術館のコレクションではなく、企画展に頼っていることが分かる。コレクションによる常設展を充実し、県民にアピールしてもらいたい。

**【美術館副館長】**

常設展は年4回、展示替えをしながら開催してきたが、展示内容が中級者以上を対象にしていたことから、初心者を対象にした常設展を開催し、多くの県民が鑑賞できるようにしたい。

**【理事】**

美術館の常設展は、企画展に比べて目立たない。新型コロナウイルス感染症のような状況下では、大きな企画展の開催は困難となる。美術館には、岩手ゆかりの芸術家の素晴らしい作品がたくさんある。企画次第である。

**【理事】**

博物館は、素晴らしい自然環境にあり、岩手のシンボルの一つになる場所なので、そういうPRもあって良い。

**【理事】**

新型コロナウイルス感染症の影響で、大ホールでのイベントの開催の仕方が、小規模で密を避ける仕方に変化してきた。県民会館の大ホールも、中を区切るとか、今後の利用方法を検討する必要がある。

【理事長】

美術館の鑑賞者数は、博物館もそうだが、開館時をピークに3万人から4万人と低位安定していたことから、県民に足を運んでもらうため、報道機関との協働で実行委員会方式により企画展を開催するようにした。ジブリの大博覧会には、多くの県民が来場するなど意義はあった。一方、それぞれの館は、岩手の歴史・文化や岩手の芸術家の作品を多数所蔵している。それらを常設展で県民に鑑賞していただくようにしているが、なかなか足を運んでもらえなかったという現実もある。

そこで、美術館館長のアイディアで、「常設展」は常にあるものとの印象があるので、「コレクション展」という名称に変更し、展示内容に磨きをかけて来年度以降の展示を検討しているところである。

以上をもって議事の全部を終了したので、午後3時5分閉会を宣し、解散した。

以上の議事の経過の要領及び結果を明確にするため、理事長及び監事が記名押印する。

令和2年 月 日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第52回理事会

議 長

印

監 事

印

監 事

印